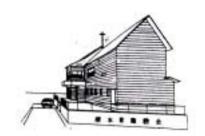
今朝の聖書から 『ルカによる福音書』9:28 ~36が開かれ、読まれます。今朝も御言葉に聞きましょう。 "祈っておられる間に、み顔の様が変り、み衣がまばゆいほど に白く輝いた。(29節)"という奇跡の出来事が中心になって います。奇跡についてですが、先に開いた箇所を思い出しまし ょう。奇跡や不思議は私たちの救いについて行われるもので す。そうでなかったら、ただの手品やマジック、説明できない 出来事に終ってしまうのです。私たちも、私たちの力によらず、 奇跡的に私たちの救いを経験したことがあるのです。まず、聖 書は"祈っておられる間に"と示唆を与えているのです。祈り と願いのないところには奇跡はやってきません。私たちは、"し めしめ"とか"ラッキー"ということで片付けていることのう ちに、沢山の奇跡的な神様の救いを、実は経験しているのです。 洗礼を受けようという思いを、心のうちに起させてくださった のも神様の恵みなのです。さて今朝の箇所ですが、"主イエス についてゆきたい"という弟子達の願いがあります。弟子達は どうして"栄光の姿に変えられるイエス様"を見なければなら なかったのでしょうか。イエス様は、彼らに"天国の体験"を させ、救いの確信を更に確かなものにされたかったのです。変 身の術を見せたかったのでもありませんし、寝ぼけていたわけ でもありません。天地創造の時から、御父とともにおいでにな ったイエス様の姿を弟子達は見ることができたのでしょう。 33 節に "このふたりがイエスを離れ去ろうとしたとき、ペテ ロは自分が何を言っているのかわからないで、イエスに言っ た、「先生、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことで す。それで、わたしたちは小屋を三つ建てましょう。一つはあ なたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのため に」"とあります。紹介もされないのに、この人達がモーゼと エリヤだと分かったのでしょうか。疑いようもない確かなこと として示されたのです。私たちにも示された神の言葉が沢山あ ることに気付きましょう。では、この奇跡の目的は何だったの でしょうか。"栄光の中に現れて、イエスがエルサレムで遂げ ようとする最後のことについて話していたのである。(31節)" がその鍵です。勝利のイエス様への確信を与え、弟子達に、そ して私たちに"落胆する必要はない"と語られたのです。

週報

2007年 3月 18日



主の業に励むう

コリント15:58

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校 毎日曜日 午前 9:00 毎日曜日 礼拝式 午前10:30 (聖餐式 第一日曜日) 夕礼拝式 毎日曜日 午後 7:00 エステルの会 午前 10:30 岳水曜日 聖書研究祈祷会 毎水曜日 http://kusanagi.church.jp/

+ 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26 **2054-345-4070** E-Mail grace@big.jp 牧師 村上定幸